

Ep. 10

博物館業界の
ネット活用

もう逃げられないネット社会

職場から日常生活まで、もうIT 浸けとなった私たちの生活。いまや小学生でさえPC を使いこなす時代だけに、もう「後回し」にはできません。博物館も、積極的なネット活用に踏み出すべき。とは言え…何をどうしたらよいのでしょうか？

出張の多い当社にとって、インターネットは必需品。ホテルの予約、航空券の購入、到着時間、乗り換え時間を確認してのスケジュールリング、現地までの道順の予習など、すべての準備がネット経由。現地に着いてからも、乗り換え予定の確認に携帯サイトを使ったり、業務連絡にメールを使ったりと、もう自分の頭にUSB ポートを確保したいくらいの使用頻度。

古株の社員によれば、創業してまもない頃の出張は、各地の道路地図と時刻表がすぐにボロボロになるほど準備が大変だったとか。出張に限らず、情報収集から事務処理までのあらゆるオフィスワークがPCの役目となった昨今、私たちの労力は本当に軽減されました。その分、日進月歩のIT ツールの進歩には、常に目を光らせていなければならぬわけですが…。

ビジネスマン顔負け！ パワポを使いこなす小学生

父が仕事でIT 浸けなら、子供もまた同じ。以前、小学校の授業参観で「将来就きたい仕事」を一人ずつ発表するという授業があったのですが、Microsoft Powerpoint で作成したスライドショーをプロジェクタに投影して「プレゼンテーション」する小学校6年生の姿には、ショックを受けたものです。

最近では、小学校低学年の子供たちも、インターネットを使います。地域の情報を調べる宿題はもちろん、ゲームの攻略法から好きな野球選手の情報まで、彼らは検索エンジンを手足のように使いこなす始めています。今どきの学校はインターネット接続環境が整っているため、基本的なアプリケーションの操作は、もはや義務教育の段階で習得するのですね。

こうして一つ一つのシーンを具体的に思い浮かべると、10年前と今とでは、大人も子供も、仕事や勉強のスタイルが大きく変わっていることを実感します。10年前には考えもなかったシーンが、次々と現実化しているのです。そのうち、私も

ついていけなくなったりして…凄い時代になったものです。

インターネットが博物館に求める役割とは

さて、博物館を回っていると、インターネットに関するご質問をよくいただきます。SEO 対策、つまり館のホームページを検索結果の上位に表示してもらう方法にはどの企業も頭を悩ませているものですが、博物館のホームページは予算規模も小さく、役割も一般企業のそれとは異なります。

たとえば旅館やテーマパークのWeb サイトであれば、その施設がどこにあるのか、何が魅力なのかを集中的に知らせなければならぬため、観光集客促進としての「宣伝」が必要です。博物館のWeb サイトでも立地や見どころの告知は必要ですが、それ以前に、公共施設の案内物としてぜひ果たしておくべき役割があるのです。

公共施設としての博物館に求められるものとは。個人的には、観光施設的な姿勢よりも、たとえなら新聞社のような機能を果たすべきと考えています。つまり、「何かを調べにきた人に対し、一次資料として使える情報を提供する」こと。館が所蔵する作品の情報をきちんと公開することこそ、博物館のインターネット利用の基本と言えるでしょう。



博物館は、「ぶらっと立ち寄り」よりは「何かの目的で訪れる」ことが多い施設です。実物の博物館が展示を通じて来館者の期待に応えるのと同様に、博物館サイトも閲覧者の期待、閲覧目的に応える必要があります。

今までは「次年度以降に」という声も多かったのですが、もう、博物館もネット社会から逃れられそうにありません…。